

自治会の窓

自治会はみんなの力で

生島自治会

昔から継承されてきた古きものを生かし、新しいものを創造しつつ、集落を維持、発展させるため努力してこられた先人の苦労に思いをよせ、この地に生をうけたことに生きがいを感じる昨今です。美しい自然に囲まれ、農林、畜産業を中心に生活している戸数二十三戸、人口八十六人の小集落です。自治会の会則も未制定で会員相互の話し合い（申し合わせ）によって自治会を運営、活動を続けている現状です。このことが反面、自然環境に恵まれた集落の特色かも知れません。

主な、自治会年間行事として、地鎮祭（一月）総会（四月）河川清掃（七月）善友会（報恩講）（十一月）……等があります。善友会は長い歴史と伝統ある行事の一つです。講師も招聘し、研修後、簡素な会食をしています。発足してから会場は集落全戸の持ち回りで開催されてきましたが、諸事情により近年は公会堂を使用し開催していきます。「まちづくりは人づくり」から……とか、いろいろと言われている時代です。年齢別人口も徐々に高齢化が進み六十五歳以上の人が約二十四%

をしめています。人の価値感、道徳感も多様化した時代ですが「ひとつの事について、みんな考え、話し合い、住みよい集落をつかっていく」という昔からの慣習は、より大切にしていきたいものです。最後に自治会の今後の課題として、○老朽化のすすむ公会堂の改築、○三隅八幡宮古跡、薬師堂……等の維持、管理、伝承……などがあります。次の世紀に大きな希望と期待をよせ、その解決、実現にむかって努力します。



歴史と伝統と

兎渡谷自治会



この住所はどう読む？「はい、ウサギワタルタニでトドロクです。」と答えたものです。この兎は兎渡谷集落の南

権現山山頂附近に残る神社跡と現在の北権現神宮との間の谷を神様の使いの兎が往来していたとのこと。また、伝説に美しい実のなる大きな椋の木があります。これは大昔、日本海を航行中の舟が権現山の山頂近くに光るものを見つけ、そこから白い鳥が飛んで来ては色々と思議な事が起こるので、何とかしようと思ひこの木に舟をつなぎ登山して、ほこらを建立した。この木の地主は現宮のものです。（現在は公会堂のある所です）この椋の木にとまった鳥がある時集落の

北権現宮附近に度々飛んで行くため、ついに南の高いほこらから現在の北の神宮へと変宮したということになったらしいのです。この椋の木も老木のためか、酸性雨によるものか、近年立枯れに近い状態になっていましたが、ついに平成元年2月26日夜中の強風によって横倒しになったので、自治会全員の手により整理されました。しかし、この木の根元附近には、小さな若木が芽生えています。

い生命を伝えるこの木は昔、海辺で育ち、現在は基盤整備された田園附近にあり、整備された河川に隣接し、文明の智機の施設等も附近に備わりました。この木は社会の変動を見守り、集落の歴史やそこに住む幾多の人々の運命を知り尽している様な気がします。新らしく芽吹いた若木に次の生への継承を祈る様に、家の個数、人口共に減少しつつある自治会ですが、自然を保ち、心身共に健康で平和な「ウサギワタルタニ」であると同時に伝統と歴史をもちつづけて行きたいと思ひます。